



ぼくは、  
イデオロギーと  
いうのがキライだ。  
イデオロギーが、  
社会をよくするこ  
とはありえない。

社会主義社会であろうが、  
自由主義社会であろうが、  
それぞれの個性が生かされて  
最善の医療がいつでも  
どこでも、誰でも受けられ  
る社会ならいいのです。

徳洲会は都会に病院を作り、  
なんとか成り立っている。  
しかしそれでは、  
私の原点である農村、  
離島の医療ができない。  
やるためには、どうしても  
政治がかまないといかん。

生命にイデオロギーはいらない。



怒りと悲しみと恐怖心が  
私のエネルギーの源泉だ。  
特に恐怖心。  
くだらない人生を  
過ごすことへの恐怖心、  
停滞への恐怖心が。

希望と恐怖は切りはなせない。  
希望のない恐怖もなければ、恐怖のない希望もない。



四〇歳までは、生きがいを持っている人は年寄り  
に見える。四〇歳を過ぎると若く見え出す。

未来は人を成功に導く信仰である。



世界の医療は徳田が変わるといって、アメリカ・ソ連・中国に協力する。必ず他の一六〇カ国から依頼が来ますよ。そうすると、私は各国にひとつずつ病院をつくって、その病院を全部大学に格上げして、その大学で医学部の学生を育てて、その国の農村・離島の医療をする。これが私の夢です。

徳洲会の院長から看護婦のみんなは、一〇年後にはマダガスカルとか発展途上国にいると思ってくれ。五〇年後には天国かな。

私には大きな目標がある。

日本の、そして世界の医療を根本から変えるという、

とてつもなく大きな目標である。



こうして何万人もの熱気が徳洲会の進出を支えてくれた。



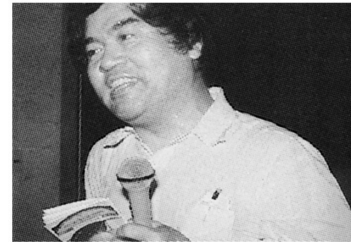




情熱！、それは医療だって、政治だって同じことさ。全力投球だよ。



病院が立っていく。そこに出会いがあり、笑顔が広がる。



この地球上に真の 医療を実現すること、

それが徳田虎雄の生ある 限りの政治生命である。

敵が多ければ多いほど、自分の身边はきれいにしておく。

弾圧は受けて立ちますよ。徳之島から出てきた人間は、メシが食えれば成功のうちなんです。

勝負というのは、相手を呑んでかからなければならぬ。  
ひよっとすると負けるかなと思うと負ける。

敵と勝負をするなら、  
時間で勝ち、量で勝ち、質で勝つことを考える。

もっと  
敵を

知れ！





私が裏切りにあう可能性はあるだろう。あるが、  
それでもいいと思っている。自分に代わる人間が、  
私以上にやってくれるなら。裏切った人間の方が哀れだ。



大いなる知は表面はおっとりしているが、小さな知はいつもあくせくと気を配っているものさ。それにつけてもあくせくとしたパーティーが多すぎるね。大いなる知よ、目ざめよ！（或るパーティーで）

感動は次の行為へのステップでなければならない。



感動する心は必要だが、感動にひたりきつては  
いけない。病院を作ってもそう、花を見てもそう。  
母ちゃんと会ってもそう。